2023年度申請　自由学園最高学部研究奨励金　応募要項【最高学部在学生用】

|  |  |
| --- | --- |
| 目的 | 自由学園は、最高学部生の自由学園生としてふさわしい自主的な学びを奨励するとともに、研究活動における経済的制約を緩和することを目的に、研究奨励金を給付します。 |
| 応募資格 | 自由学園最高学部に在籍し、2024年度も在籍予定である者。 |
| 助成期間 | 助成対象期間は原則1年間です。研究奨励金はなるべく2024年度中に使用してください。2025年度以降に使用する場合は、申請書（所定用紙）の＜4研究内容＞の欄に、詳細を記述してください。 |
| 助成件数 | 研究奨励金は（A）「海外での学び」および（B）「国内での学び」の2種類に分類されます。  (A)「海外での学び」  日本国以外の国に渡航して研究活動する場合を対象にします。本年度の給付金は8名を上限として各10万円以内とします。  (B)「国内での学び」  日本国内で研究活動する場合を対象にします。本年度の給付金は10名を上限として各5万円以内とします。  ※同時に両区分へ応募して構いません。  ※いずれも個人研究とします。共同研究でも申請は可能ですが、その場合であっても助成金額が人数に応じて増えるわけではありません。共同研究の場合は研究代表者に研究奨励金が支給されます。  ※個人が最高学部在籍中に給付を受けられる回数は、原則として両区分それぞれ1回ずつのあわせて2回までです。共同研究の連名者も1回とカウントされます。ただし、高等科から最高学部へR方式推薦入学制度により入学する際に受給した研究奨励金は上記にカウントされません。 |
| 応募方法 | 自由学園ホームページの下記サイトへアクセスして申請書（Word形式）をダウンロードして、必要事項を記入してください。記入済みWordファイルを、下記公募期間内に、メールに添付してg-kyoumu@jiyu.ac.jpへ提出してください。なお、申請書に未記入の項目がある場合は書類不備で失格となります。申請書の返却はしません。 |
| 書類URL | https://www.jiyu.ac.jp/college/students/grant.php |
| 公募期間 | 2023年11月22日（水）8:00から11月25日（土）15:30まで  最高学部教師室窓口取扱時間：月～金9:00～17:00 土9:00～15:30 |
| 助成対象と なる費用 | 研究に直接必要な経費（旅費・渡航費・学費）とします。汎用性のある機器（パソコン・アプリなど）の購入費や謝金・消耗品などの費用は原則として対象外とします。 |
| 審査方法 | 選考委員会が事務審査した後、最高学部教師会で審査し（12月）、常任理事会の承認を得て（1月）、支給者ならびに支給金額が決定されます。審査の過程では、必要に応じて申請書の内容に関するヒアリング調査などを行います。 |
| 審査基準 | 主に以下の基準に従って審査を行います。  (1)自由学園最高学部生の研究としての妥当性及び研究環境の適切性  (2)研究課題の学術的及び社会的重要性・妥当性  (3)研究計画・方法の妥当性  自由学園ならではの研究を期待しています。すでに準備を始めている研究はとくに積極的に支援したいと考えています。また、限られた財源をできるだけ多くの最高学部生の支援にあてたいと考えています。 |
| 審査結果の 通知 | 2月に採択結果を応募者へ担任教員を通じて通知します。なお、採否の理由などに関する問い合わせには応じられません。 |
| 交付時期 | 2024年4月1日以降、学生金庫を通じて交付されます。 |
| 受給後の義務 | (1)採択課題については、採択者名、学年、研究課題名、概要の全部あるいは一部を、公的情報のニュースなどに掲載します。  (2)最高学部研究奨励金受給者は、研究終了後すみやかに、研究成果および給付金の使途につき実績報告書（所定用紙）を提出してください。あわせて研究成果を発表してください。発表は学内外を問いません。報告書提出と発表は2018年度中に行ってください。  (3) )研究成果は実績報告書にもとづき自由学園公式サイトなどで公表されます。ただし、個人としての学術論文への投稿や特許申請に関連した希望などがある場合、開示内容を限定できるものとします。また、研究成果を中等科・高等科・最高学部その他自由学園関連団体で発表することを最高学部教師会から依頼することもあります。これは義務ではありませんが、研究費獲得のためにも何卒ご協力ください。  (4)最高学部教師会は最高学部研究奨励金受給者に対して、研究の進捗状況や結果について、ヒアリングを行うことがあります。 |
| 研究成果の 発信 | 本助成により得た研究成果を学外で発表する場合には、本助成を受けたことを必ず表示してください。また、論文や報告書などの謝辞（Acknowledgement）に本助成の交付を受けて行った研究の成果であることを記載してください。  〈記載例〉  【英文】This work was supported by Research Grant from Jiyu Gakuen College.  【和文】本研究は自由学園最高学部研究奨励金の助成を受けて行いました。 |
| その他 | (1)申請書に虚偽の記載などがあることが判明した際は、採択後でも決定を取り消すことがあります。  (2)最高学部研究奨励金の返還義務は原則としてありません。ただし、計画どおりの研究の成果が得られなかった場合、あるいは受給者が受給中に最高学部を中途退学した場合、受給した全額または一部について返還を求めることがあります。 |
| 書類相談 | 書類の書き方に関する相談を、11月1日（水）8:00から22日（水）17:00までメールで受け付けます。g-kyoumu@jiyu.ac.jpまでご一報ください。 |
| 応募問合せ先 | 最高学部教師室　担当：遠藤・松下  E-mail：g-kyoumu@jiyu.ac.jp  Tel&Fax：042-422-4389（最高学部教師室）  URL：https://www.jiyu.ac.jp/college/students/grant.php |